



小柳 氏よりレクチャー

ファウルを吹くにあたり「事実・責任・影響」において、「事実」というものが最も重要なのは言うまでもない。その「事実」をどこで確認するかが一般のゲームでは特に重要となる。確認が出来ない状況で笛を鳴らしてしまうと、選手からの信頼を失ってしまったり、不要なアピールが出現する要因となる。

「罪なきは罰せず」。責任の事実を確認するために、足を運ぶことが重要。接触があった場合には、それがファウルなのかそうでないのかを判定していくが、笛を吹くことがファウルの判定ではないので吹かないという判定をするための確認も大事。その為には足を運び判定し続ける努力が必要になってくる。

ゲーム中は様々なところに気配りが必要となる。例えば、選手・ベンチがどのような意図をもってゲームに臨んでいるのか？一般の試合に参加する選手はこれまでの競技経験が多いので、見えないところで意図的に反則をすることがある。自らスペースを詰めたのにもかかわらず、アピールをしていくことがある。接触=ファウルではないので、その接触の責任を判定するためにより良い位置での確認をし判定することが大事である。

接触がないものを判定しない。これは大きな信頼関係の崩れに繋がるので足を運び続ける努力が必要。狭いところに無理やり進むプレーをするプレイヤーがいるが、審判は選手よりも早く、どちらがスペースを先に詰めたのか？正当な位置をしめたのか？確認していくことが正しい判定に繋がるものと考えられる。

影響を考えていく上では、体の大きさなどによっても変わってくる。選手自体にあまり影響がなかったとしても、質の悪いものであったり、意図的な接触であったりするものに対しては笛を鳴らすことは必要となってくる。意図的に行おうとするものに対しては、選手の表情や視線なども参考にする。それを確認するためには選手より先に早くとらえて・受けていくことが情報収集になり判定に繋がる材料となる。

ゲーム中にトラベリングが流されてファウルが鳴るといふシチュエーションも出現してくる。ファウルだけを意識するのではなく、オフェンスのヴァイオレーションにも意識を向けなければならない。ピポッドフットはどちらなのか？ドリブルより先に足が浮いてないかなどの確認が必要であり、それらをルールブックにて確認しておく必要がある。ルールブック以外でも、技術の理解が必要。成立していないものを判定してしまうと信頼関係に影響が出てしまう。

チームごとに目標としているものや、チームが求めていることがある。例えば、楽しむ為にやっているチームや上を目指しているチームなど、それぞれの目標がある。プレイヤーはこの競技を好きだから真剣に臨み、全国大会等では自費で会場まできている事実がある。その選手たちに対して大会期間中は気分を害して帰ってほしくない。負けてもいい気分で帰ってもらえるような姿勢を見せていかなければならない。

チーム関係者として感じたこととしては、判定基準は地域などによって様々な部分もある。選手はやりたいようにしかやらないが、審判としては規則に則って一試合基準を示すことが大事である。それをチーム・ベンチは感じ取って、ゲームに対応していくことによって信頼関係やチームの技術向上に繋がると考えられる。その為にはより良い位置での判定が大事であり、努力が必要。

全国大会において所属していたチームが田中氏(神奈川県)に担当しても頂き、選手がすべて納得したゲームであった。選手と審判、ベンチとの関係性が作れると、参加している側や運営している側も気分が良く大会運営が出来る。

ルールへの精通が必要であり、審判が説明責任を出来るような心構えであったり、どのルールを適用するのか準備が必要であり、自信を持って伝えていけるように勉強しなければならない。

選手はケガによるプライベートへの影響もある。アグレッシブになりそうな状況が考えられるときはより早くゲームを感じとり、ケガをさせないようにしなければならない。

常に確認できる位置に、足を運び続ける。

今日や来週ではうまくならないが、一か月後にチームとの関係性が良好となるように。

ずっと頑張り続けること。選手のために努力していく必要性がある。

以上。

#### 特記事項、要望等

今回、参加人数に対して試合数に限りがあるということで、割当のある者は試合を終えてのミーティング記録用紙、割当のないものは観戦記録用紙を設けた。ただ漠然と試合を見ずに、一つの試合において何がポイントとなるのか、講師の感覚と自身の感覚の共通認識と相違点を感じながら観るようにした。

講師の方々から、コート内外での立ち居振る舞いや講評の仕方、後進育成の為の指導、伝え方など勉強させていただいた。

この度は、年度始めの御多忙中、また高校関東大会予選直後にも関わらず3名の講師に加え、開講式には北島審判部長にもお越しいただきました。誠に有難う御座います。日頃、連盟外に出る機会の少ない審判員が多い中、県協会からの講師や他連盟から協力に来ていただける審判員の方々とは非常に貴重な機会となりました。

北島審判部長からもあったように今回の講習でいきなり何かが変わるわけではないですが、これを機に連盟全体として良き方向へ進んで行けるよう精進して参ります。「連盟の垣根を越えて」活動、協力して行きたいと思っておりますので、今後も何卒、宜しく願い申し上げます。

この場を借りて、厚く御礼申し上げます。